

# 年頭に当って

当社 取締役社長 上杉 登



新年明けましておめでとうございます

平成20年、ねずみ年がスタートしました。皆様には、健やかなお正月を迎えられたこととお慶び申し上げます。ねずみ年は草木が大地に茂り、種子の中に新しい生命が芽生えるとの言い伝えがあり、昨年から引き続く形で今年も農業が世界的に注目されそうです。21世紀のキーワードはFuel(燃料)Food(食糧)Fire(戦争)の頭文字をとり「3F」と云われたのは8年前ですが、世界はまさに食糧とエネルギーの戦いの様相を示しております。

さて、今年予定されている主なイベントを拾いあげて見ますと、2月には第17代韓国大統領、3月には新ロシア大統領が就任、12月に新米国大統領が選出され新たなリーダーが続々と誕生します。7月には洞爺湖サミットが開催され世界の首脳が北海道に、8月には夏季オリンピックが開催され世界のアスリートが北京に集合します。東アジア時代の幕開けとも云えます。一方、京都議定書の約束期間(2008年から12年)が開始することから、洞爺湖サミットでは環境問題がより一層脚光を浴びることになるでしょう。

今年のキーワードは「資源」(Resources)「環境」(Environment)と「格差」(Disparity)のようです。英語の頭文字をとると「RED」となりますが、世界に警告を与える年になりそうです。また、REDからGREENへの道筋を国際的に創る年とも云えます。

## 近未来学が予想するRED

2009年には米国において穀物在庫が減少し、一部禁輸示唆。2012年には、北京市の水不足深刻化、人口流入を禁止する措置へ。高級農産物の海外向けが増加し日本国内で手に入りづらくなる。2014年にはインドが水資源確保のためにネパール・ブータンへの関与深める。中印関係緊張。米国のオラガガ帯水層の枯渇問題が深刻になり、中南部での穀物生産が減少などが予想されます。一方、貧困、砂漠化、地域紛争の連鎖に悩むアフリカでは地球温暖化も加わり飢餓人口の増大も懸念されます。5年後の世界では「水の確保」が最大の課題になりそうです。(出典：ダイヤモンド新年特集号)

## 食糧資源が示すRED

昨年は、トウモロコシ、大豆、小麦価格の高騰が続く異常な相場展開となりましたが、食料自給率39%の日本にとっては、海外事情に目を離すことができません。トウモロコシは米国と中国で全生産量の約6割を、小麦はEU、中国、インド、米国、ロシア、カナダ、豪州の7カ国で全生産量の約7割を、大豆は米国、ブラジル、アルゼンチンの3カ国で全生産量の約8割を占めております。これら穀物の在庫水準が20%を切る危機的な状況を考慮しますと、最低限の数量を長期的に確保する為にも農業大国との経済協力協定締結が必要となります。因みに日本はトウモロコシにおいて世界一位、大豆では世界三位、小麦では世界四位の輸入大国です。この世界的な食糧増産で肥料需要が逼迫しており、磷酸資源では中国の輸出規制、カリ資源においては輸出大国であるロシアの鉱山事故などで高値市況は続くと思われ。因みに磷酸資源は米国、中国、モロッコの3カ国で世界の生産量の約7割を、カリ資源ではカナダ、旧ソ連の2カ国で約6割のシェアを有しております。

## 世界的なREDの脅威に対する日本の役割は？

日本の農業復活が、世界的なREDの脅威に対するベストな指針となると思います。農産物は天然資源でありエネルギー効率が極めて高い生産物です。CO<sub>2</sub>を自然に吸収することから環境対策の目玉となり

(次ページへ続く)

ます。また、地方経済は大きく農業に依存しておりますが、農業の付加価値化を高めることは地方再生にも繋がります。トウモロコシ、大豆、小麦などと異なり、コメの国際貿易市場は小さな規模ですが、他の穀物の世界的な需給逼迫を考えるとコメの重要性が増してきます。日本では消費減に伴う減反が政府方針になっておりますが、潜在生産能力一杯の1400万トンまで生産量をあげ、国際貿易市場で貢献することに政策転換する価値は大きいと思います。環境問題に直結する水田維持、世界に誇る農業技術の向上、農業の産業化といった副次的効果も期待できます。コメのDNAを解明した最先端の技術も、農業生産の基盤が弱ければ宝の持ち腐れとなるでしょう。青果物に目を向けると、日本は生鮮・冷凍野菜ともに輸入の4割を中国に、生鮮・乾燥果実の4割弱を米国に頼っております。中国における農業人口の減少・生活水準の向上、世界的な水不足を想定しますと、日本は増加する野菜業務用需要に対応できる生産体制への移行が急務となるでしょう。また「食品の安全」の世界規準作りのリーダーシップを取る一方、美味しく、栄養価の高い青果物の輸出を目指すことが世界の変化に応えることになると思います。農業復活と農産物の付加価値化が日本の地域間格差解消並びに環境保全の決め手であると共に、世界の食糧戦争への効果的な防御手段であると信じたいところです。「REDからGREEN(農業繁栄の印)へ」と肥料業界が農業復活のオピニオンリーダーとなる事を期待して新年の挨拶にかえさせていただきます。



.....

## 旧暦に学ぶ平成20年の予想



# 四季順循 (季節のぶれが少ない)

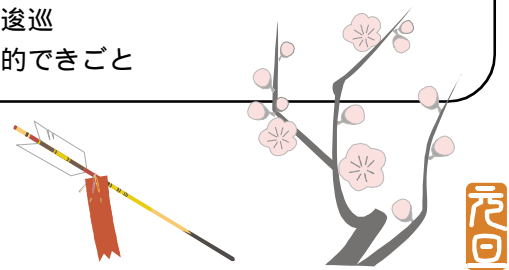
恒例の元クラボ-常務・小林弦彦氏による今年の「予測」抜粋をお送りします。同氏が毎年旧暦を参考にしてその年の天候・政治・経済・社会の動向を占っています。

**社会**  
 台風の当たり年  
 引続き地殻変動  
 風吹けば桶屋が儲かる  
 道徳の乱れに曲がり角

**経済**  
 株価前半好調後半暴落の危険性  
 中国ブームも一段落  
 景気はジェットコースター  
 あらゆる原料相場大荒れ

**天候**  
 春(花気満山)・・・穏やかな春の訪れ  
 夏(早雲飛火)・・・早魃気配の厳しい夏  
 秋(秋風不尽)・・・好天なれど風荒れる  
 冬(寒流雪満)・・・寒波早く厳しい冬

**政治**  
 中距離競走政権  
 総選挙の当たり年(子年の選挙は過去6回)  
 政党逡巡  
 驚愕的できごと



新年明けましておめでとうございます。今年は長いお正月休暇を過ごされた方も多かったのではないのでしょうか。充電も十分に、今年もアンテナをしっかりと立てて情報発信に努めて参ります。倍旧のご愛顧の程、宜しくお願い申し上げます。

編集局長：小田原次洋 アシスタント：助川尚子

電話：03-5802-2011/E-mail：journal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp